

退職もいいものだ！ 退職だからこそ再び繋がった子ども達と私

あと2日で退職です。翌日から次の職務が始まることから、あまり退職を迎える自覚がなかったのですが、先週に最初の卒業生(50歳)、そして、金曜日に最後の卒業生(33歳)が校長室に来てくれたことがきっかけで、一気に退職を迎える気持ちが大きくなりました。

金曜日に来てくれた教え子達は、私が36歳と39歳の時に、3年生、6年生で担任した子たちです。

27歳から8年間学校を離れ、久しぶりに学校現場に復帰した私は不安いっぱいでしたが、この子達のかかわり、素直さに救われました。最後の学級通信は「9人の天使たちへ」という題で結びました。

そして、卒業の年に2度目の担任となり、再び、夢のような1年間を過ごしました。

金曜日には花束と一緒に、48ページのアルバム本をプレゼントしてくれました。その本には、あの頃の懐かしい写真と共に、今の写真と長いメッセージが載っていました。「先生、今読んで読んで」というので、目を通すと、涙が止まらなくなりました。担任の指導が良かったので、みんな文章がとともうまいのです。

私も今年の1月に出産し、母になりました。
いつか我が子が小学生になった時、
増野先生のような、何事にも熱心に取り組み、
生徒に寄り添い、同じ目線で同じ様に
全力で遊び、喜び、笑い、時には叱ってくれる、
そんな愛情深い先生に
出会って欲しいと思います。
増野先生、私たちの担任になってくれて
ありがとうございました。
感謝しています。

わたしの子供達も先生のような、
子供達を信じ、様々な事に挑戦させてくれて、
世界を広げてくれるような
先生と出会えたら良いなと思います。
長い間本当にお疲れ様でした。
先生のクラスに2回もなれて
とっても幸せでした。

「先生とわたしたちのWA」という本の

題は、2回目の担任の時の学級通信の「17人のWA」(複式で5年生もいました)という題名をもじったものです。今、広島に住んでいる男子が、1月から原稿や写真を集め作ってくれたようです。

金曜日は突然の訪問で本当に驚きました。お客さんですというので、玄関に出てみると、花束を持った本校の保護者に近い年齢の二人が「先生、私たち誰だか分かりますか?」と言うではありませんか。今風(一人はカラコンも)の派手な化粧にマスク顔で、正直全く分かりませんでした。

〇〇です!と言われた瞬間に一気に思い出しましたが、21年間の時の流れは大きいですね。一人は小学4年生、一人は子どもが生まれたばかりのお母さんでした。

校長室で、「10人の天使」というライングループが作られ、その日のうちにあっという間に11人(途中からの転校生1人と私で)が繋がりました。そして、この土日で40メッセージが飛び交いました。

40歳を最後に、学級担任から離れて20年。直接の教え子という教師本来の子どもとの熱い繋がりがなくなり、こんな感覚を忘れていましたが(何回か同窓会はありましたが)、金曜日に担任としての感覚が強烈に戻ってきました。

ラインでは、「増野先生のおかげで、LINEという形ですが、またみんなと繋がることができました。」「先生のご退職を機に、先生や大人天使たちとまた繋がれたこと、感謝します。」とありました。

教師冥利に尽きるここ数日です。退職もいいものですね。

木曜日の良城小の臨時登校日に教室を回った時、何人かの3年生が、「校長先生が57歳だったらいいのに」「57歳になってください」と言ってくれました。

優しい子ども達に囲まれいよいよ31日を迎えます。